

メタボジェニック (MetaboGenic) 療法の作用機序 (仮説)

がんは代謝性疾患との認識です。主に遺伝病ではなく、慢性ストレスへのエピジェネティックな反応であるという認識です。

酸化還元反応は、生体内のエネルギー変換の中心です。酸化と還元は常に一緒になります。がん細胞は、典型的には、異常なエネルギー代謝を有するため。我々のアプローチは、正常細胞とは異なるがん細胞および他の異常な増殖細胞の最も一般的な特徴を標的とすることです。

長年にわたり、鉄と銅、亜鉛、マンガン、セレンイオンなどのがんとミネラルとの関係が認識され、議論されてきました。最近の研究は、ミネラルが腫瘍微小環境および転移において役割を有することも示しています。ミネラルの獲得、流出、貯蔵および調節の経路は、全てのがんにおいて、正常細胞と異なっており、ミネラル代謝が腫瘍細胞の生存の中心的な側面であることを示唆しています。

我々の治療法は以下の仮説に基づきます：細胞のミネラル輸送機構を最適化し、細胞の酸化 - リン酸化を補正し、異常なエネルギー代謝を回復させ、細胞能力を増強するのを助けることでがん治療を行える。この成分は細胞内に拡散する（受動拡散）。エネルギー効率の低いがん細胞はがん細胞の細胞質から余分な成分を排出することが困難であり、蓄積された成分はがん細胞を阻害する可能性がある。一方、エネルギー効率の高い正常細胞は、細胞への毒性効果なしに細胞質から余分な成分を除去することが可能である。

我々はこのような機能を果たす成分の組み合わせを検証・開発してきました。